

覇権？テクノロジー？ 「英語一強」の世界はようになる

島田雅彦

(作家)

一九八〇年代前半、外国語大学のロシア語学科在学中に「サヨク」「青二才」を標榜して文壇に登場した作家、島田雅彦は、その後、ニューヨークやベネチアにも暮らし、世界中の作家、詩人、劇作家たちと交流を深めてきた。深く深く日本語と英語などの外国語の関係を洞察してきたその眼から見える現在を訊く。

現在の世界では、「グローバル化」の名の下で米国が覇権を拡大するのと歩調を合わせるように、言語においても「英語一強」の様相が一段と鮮明になってきています。

たとえば、大学の教員募集でも英語関連の募集が圧倒的に多く、英語でおこなう授業のコマ数がその大学のステータス評価の基準にもなっています。また、文学の世界でも、日本は「翻訳大国」といわれるほど欧米各国の作品を日本語に翻訳して出版してきましたが、ここ最近では出版される翻訳文学のおよそ九割が英米の作家が書いたものといわれています。そして、わたしは東京外国語大学の出身で、この卒業生には外交官になる人が少なくないのですが、外務省も現在では北米局を中心としたアメリカ・スクールが圧倒的に幅を利かせています。

外務省には、担当地域の言語ごとにロシア・

と考えるはずで。つまり、おカネ。実際に英語がグローバル言語として認知される過程では、米国の通貨であるドルが世界の基軸通貨としての地位を確立していったのです。また、金融や情報通信などの産業でも、世界は米国を中心に動くようになりました。こういった「おカネ」の力が、英語偏重の背景にあるのです。

しかし現在、米国の覇権を脅かす新たな勢力が台頭してきています。そう、中国です。特にインターネットの世界では、次世代の通信システムとなる5Gを巡る米国と中国の主導権争いが熾烈で、米国の要請によってカナダ当局が中国系企業「ファーウェイ」の副会長を逮捕した一件も米国サイドの危機感が如実に表れたものといえるでしょう。

また、ネット通販の世界でも中国系通販サイト「アリババ」が人民元による決済を全世界で急速に拡大しているし、中国政府が掲げる新経済圏「一带一路」でも、決済通貨としての人民元のプレゼンスが拡大していくことは間違いありません。

米国と中国の覇権争いの行方について、文学



者であるわたしは予測をコメントする立場にありませんが、仮にこの戦いで中国が最終的に勝利を収めたとして、中国語が英語に代るグローバル言語になるのでしょうか。「英語が話せれば高収入が得られる」と考え、高額な費用を投資してまで勉強する日本人は、一〇年後、あ

スクール、チャイナ・スクールなどの語学関が存在している、かつてはそれぞれが力を持っていましたが、現在ではそういった多様性は失われて英語関の専横状態になっていると聞きます。たとえば、外務省を通じて日本の政府がロシアと交渉する場合、かつてはロシア・スクールの外交官たちが下準備からイニシアチブを握って進めましたが、現在はアメリカ・スクールの意向が強く反映される傾向にあるようです。

英語の文法は意外と緩い

「外務省の多様性が失われた」といいましたが、それは先に述べた大学や翻訳出版界でも同様です。わたしの通っていた頃の東京外国語大学は特に「英語中心主義」を嫌う性格が強くあり、ロシア語・スペイン語・中国語学科が威張っていた印象がありますが、現在では英語偏重の波に押されていることが容易に想像できます。

では、なぜ英語ばかりが有り難がられるようになったのか。その答は、わたしたち日本人が「英語を話せるようになりたい」と考えるときに、語学力に付随して具体的に何を求めているかにあります。そう、多くの人は英語力を就職や転職の場面で活かして、より多くの収入を得たい

留まっていたことを確認しておきたいと思えます。たとえば、ヨーロッパにおける外交の舞台ではフランス語が公用語という立場にあり、国際会議でも国際条約の条文でもフランス語が使われていました。この慣例がはじめて破られたのは第一次世界大戦後の一九一九年に開かれたパリ講和会議で、米国のウィルソン大統領とイギリスのロイド・ジョージ首相がフランス語を解さなかったために外交史上初の会議通訳がおこなわれたのです。わずか一〇〇年前のことです。

中国語がグローバル言語になったら大学の授業も中国語でおこなわれるようになるのか、それはあり得ない。経済学部ならどこの国の大学でもケインズを学ぶだろうし、ケインズの著書は英語で書かれているのだから。たしかに、アカデミズムの世界で中国語が基軸言語になるには不合理があります。大学の授業で扱う古典で中国語で書かれたものは、一部の学科を除けば、ほぼないに等しいのが現状です。

しかし、たとえば、万有引力を発見した物理学者アイザック・ニュートンはイギリス人です

るいは二〇年後に、同じように中国語を勉強するようになるのでしょうか？

その可能性について考えるまえに、イギリスが当時の覇権国家であったスペインの無敵艦隊に勝利して新たな覇権国家となった一六世紀後半以降も数世紀の間、英語は一ローカル言語に